

G-CSFフォーミュラリー

1. 「がん薬物療法での好中球減少症」に対するG-CSF製剤の使用について

推奨する薬剤	(1)入院			(2)外来		
	●一次予防、二次予防、 【皮下注】	●治療的投与 【静注】	●治療的投与 【皮下注、静注 共通】	●一次予防、二次予防 【皮下注】	●治療的投与 【静注】	●治療的投与 【皮下注、静注 共通】
第一選択	① フィルグラスチム BS注	① フィルグラスチム BS注	① フィルグラスチム BS注	① ジーラスタ注 (※1)	① フィルグラスチム BS注	① フィルグラスチム BS注
第二選択	② ノイトロジン注	② ノイトロジン注	② ノイトロジン注	② フィルグラスチム BS注	② ノイトロジン注	② ノイトロジン注
第三選択	③ ジーラスタ注 (※1、2)			③ ノイトロジン注		

(※1) weeklyレジメンでのジーラスタ注は使用不可

(※2) 入院でのジーラスタの使用は患者の状態等によりやむを得ない場合を除き避け、外来での投与を推奨口

一次予防	- FNの発症頻度が20%以上のがん薬物療法を行う患者で推奨 - FNの発症頻度が10-20%のがん薬物療法を行うFNリスクを有する患者で考慮 - FNの発症頻度が10%未満のがん薬物療法を行う患者では行わない
二次予防	前コースでFNまたは好中球減少症に伴う用量規制毒性あり、G-CSF未使用で、かつ、化学療法の減量・スケジュール変更が望ましくない場合に考慮
治療的投与	- 無熱性好中球減少症の場合、ルーチンにG-CSFの治療的投与をすべきでない - FN患者に対してルーチンにG-CSFの治療的投与をすべきでない ※ ただし、G-CSFの予防投与を受けていた場合は継続投与が勧められる ※ ただし、G-CSFの予防投与を受けていない場合、高リスクの場合は治療的投与を検討する
参考文献	- 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン 改訂第2版(2017.9) - G-CSF適正使用ガイドライン2013年版 ver.5(2018.3)

2. 特殊な使用状況に対するG-CSF製剤の使用について

以下の目的に対するG-CSF製剤の使用について

- 造血幹細胞の末梢血中への動員
- 造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進
- HIV感染症の治療に支障を来す好中球減少症
- 骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症
- 再生不良性貧血に伴う好中球減少症
- 先天性・特発性好中球減少症

推奨する薬剤	
第一選択	① フィルグラスチム BS注
第二選択	② ノイトロジン注